



**東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット**

**Health Policy Unit (HPU)**

**医療政策実践コミュニティー**

**Health Policy Action Community (H-PAC)**

**第4期（2014年度）活動報告**

**2015年5月**

**H-PAC 運営事務局**



**■東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット**



## (Health Policy Unit=HPU)の活動内容

**教育活動:** 東京大学公共政策大学院において「医療政策」「事例研究」の講義を行います。

**研究活動:** 医療政策における喫緊の課題に関する研究を行います。

**社会活動:** 医療政策実践コミュニティ(H-PAC)の主幹と公開シンポジウムの開催をいたします。

## ■HPU 運営体制

東京大学公共政策大学院と大学院経済学研究科の教員・研究員により運営されております。

【**スタッフ**】埴岡 健一 特任教授／井伊 雅子 特任教授／辻 哲夫 特任教授／関本 美穂 非常勤  
研究員／吉田 真季 特任研究員／岩井 万喜 学術専門職員／高橋 陽子 特任専門職員

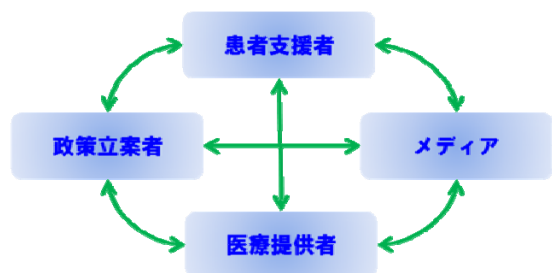
【**運営委員**】岩本 康志 教授／飯塚敏晃／大橋 弘 教授

## ■寄付企業・団体

旭化成ファーマ株式会社、旭化成メディカル株式会社、オリンパスメディカルシステムズ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、テルモ株式会社、東レ株式会社、公益社団法人日本医師会総合研究機構、一般社団法人日本病院会、フクダ電子株式会社(団体名は五十音順)からの寄付を基に運営しております。

## ■医療政策実践コミュニティ(Health Policy Action Community=H-PAC)の活動内容

「医療を動かす」をミッションに掲げ、患者・市民、政策立案者、医療提供者、メディアの4つの立場から医療政策分野においてリーダーシップを発揮している社会人(学生も可)の参加者を募ります。医療政策の最先端課題を学び、さらに実践的なグループ活動により、政策提言や事業計画作成を行います。なお、大学の卒業資格や学位、単位などにはなりません。



## ■H-PAC 運営体制 (2014年度実績)

【**外部アドバイザー**】大熊 由紀子氏(国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野 教授)[メディア]／勝村 久司氏(医療情報の公開・開示を求める市民の会 世話人)[患者支援者]／高本 眞一氏(三井記念病院 院長)[医療提供者]／信友 浩一氏(九州大学 名誉教授)[政策立案者]

【**メンター**】伊藤 雅治氏(元厚生労働省医政局 局長)[政策立案者]／前村 聡氏(日本経済新聞社大阪本社編集局社会部 記者)[メディア]／三田村 真氏(NPO法人全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長)[患者支援者]／渡邊 清高氏(帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授)[医療提供者]

【**HPU内部アドバイザー**】井伊 雅子(東京大学公共政策大学院 HPU客員教授)／辻 哲夫(東京大学公共政策大学院 HPU客員教授)

【**運営事務局**】埴岡 健一(東京大学公共政策大学院 HPU特任教授)／吉田 真季(東京大学公共政策大学院 HPU特任研究員)／岩井 万喜 学術専門職員／高橋 陽子 特任専門職員

## ■H-PAC 第4期プログラム概要

プログラムはグループ研究、リーダーシップ研修、レクチャー&ディスカッションという3要素で構成しました。要素間で相乗効果が生まれるようにスケジュールを組み、6月から12月までは3要素が並行し、1月以降はグループ研究に絞るかたちで進めました。定例の開催時間帯は水曜 19-21時です。

### (1)グループ研究

○『グループ研究』は、H-PAC参加者が自主的にグループを形成し、自分たちで設定するテーマについて、社会

への発信・提言を目的とした研究・実践活動を行うものです。各グループにはメンバーとして4つのステークホルダーから各1人以上が参画することを必須条件としました。

- 成果物提出期限に向けて、各グループ主体で研究を推進します。事務局では、グループ形成やテーマ設定の助けとなる場づくりを行い、活動期間には、メンター／アドバイザーによるアセスメント(全3回)、中間報告会の場を設けて研究の進捗支援を行いました。
- 毎週水曜の定例時間帯に打ち合わせ会場を設けるほか、各グループが自発的に集い、話し合いやフィールドワークを進めました。また、インターネットなどを活用した議論も積極的に行われました。
- 成果物の形態は、各研究グループが以下の中から選択し、設定しました：  
政策提言書／事業・非営利活動事業計画書／研究報告書
- 成果物の審査・評価は、4ステークホルダーで構成される採点委員会により、以下6軸に沿って行いました：  
ステークホルダー協業によるシナジー／テーマの重要性・喫緊性／実践・実現可能性／視点や切り口の新規性・独創性／論理性・実証性／表現力・訴求力

#### 第4期グループ研究 7つのテーマ

テーマ・タイトル	形態	研究グループ	メンバー内訳
住民・患者が必要な時に必要な医療にアクセスできる社会を目指して	研究報告書	患者支援者 2 医療提供者 4	政策立案者 3 メディア 3
生活支援コーディネーターに「介護保険未申請で介護が必要な人を介護支援に『つなげる』機能」を付加する活動	政策提言書	患者支援者 3 医療提供者 1	政策立案者 6 メディア 1
子どもの人権擁護に立った周産期医療モデル～正期産新生児を公的医療保険化する～	政策提言書	患者支援者 1 医療提供者 1	政策立案者 4 メディア 1
医療における意思決定支援の構築に向けた提言	政策提言書	患者支援者 3 医療提供者 2	政策立案者 4 メディア 1
地域包括ケアシステム機能向上のための提言 介護予防を中心に ～保健師の活躍が、地域を動かし、日本を変える～	政策提言書	患者支援者 1 医療提供者 3	政策立案者 3 メディア 2
インターネットにおける正しいがん情報へのたどりつき方～みんなのがん情報からみんなで作るがん情報へ～	事業計画書	患者支援者 2 医療提供者 1	政策立案者 1 メディア 1
2015年 時代は「地域医療抗争」から「地域医療構想」へ～市民参加で地域医療の将来像を考えよう～	政策提言書	患者支援者 2 医療提供者 1	政策立案者 5 メディア 2

### 〈2〉リーダーシップ研修

- 『リーダーシップ研修』は、H-PAC参加者が主体的に「医療を動かす」ための気づきやヒントを得る機会になることをねらいに実施しています。
- プログラムの序盤と終盤に設けるレクチャー形式の勉強会、アドボカシーの実践論を学ぶワークショップ、ロールモデルの実践に学ぶ研修会という内容で行いました。

### 〈3〉勉強会

- 『レクチャー&ディスカッション』は、異なる背景をもつ参加者が、グループ研究に先立ち、医療政策・制度・システム等に関する基礎的知見や手法を共有することを目的に設計されています。
- 「リーダーシップ」「実践の手法」「政策の知識」では、計16のテーマを設定し、気鋭の講師を招聘して、レクチャーとグループワーク(4つの立場の混在する班にわかれ、講師の提示する課題についてディスカッション)を行いました。
- 勉強会後は自主的な懇親会が開かれ、インフォーマルで活発な議論が展開されました。

第4期勉強会のテーマと講師（区分ごと開催順、敬称略、肩書は勉強会実施当時のもの）

区分	テーマ	講師
リーダーシップ研修	リーダーシップの旅	野田 智義（NPO 法人 ISL 理事長）
	戦略プラン策定演習	事務局
	OB 懇話会 1 国会議員と語ろう～いま喫緊の政策課題は何か～	今枝 宗一郎（衆議院議員） 小西 洋之（参議院議員） 薬師寺 道代（参議院議員）
	OB 懇話会 2 法案成立までの道のりを知る～医療版事故調査委員会	勝村 久司（医療情報の公開・開示を求める市民の会 世話人） 豊田 郁子（NPO 法人 架け橋） 永井 裕之（患者の視点で医療安全を考える連絡協議会） 前村 聡（日本経済新聞大阪本社編集局社会部 デスク） 薬師寺 道代（参議院議員）
	実践リーダーに学ぶ （患者支援者）	勝村 久司（医療情報の公開・開示を求める市民の会 世話人）
	実践リーダーに学ぶ （政策立案者）	辻 哲夫（東京大学公共政策大学院 客員教授）
	実践リーダーに学ぶ （メディア）	大熊 由紀子（国際医療福祉大学大学院 教授）
	実践リーダーに学ぶ （医療提供者）	武藤 真祐（医療法人社団鉄祐会・祐ホームクリニック 理事長）
レクチャー&ディスカッション	政治と医療政策決定プロセス	曾根 泰教（慶応大学大学院政策・メディア研究科 教授）
	医療・福祉財政	新川 浩嗣（財務省主計局 主計官）
	政策評価	宮田 裕章（東京大学大学院 医学系研究科 教授）
	プライマリケアにおける家庭医と他職種連携	井伊 雅子（東京大学公共政策大学院 客員教授） 葛西 龍樹（福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 主任教授） 川村 和美（シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社 教育研究部）
	市民主体の医療	埴岡 健一（東京大学公共政策大学院 特任教授）
	医療の質と情報	埴岡 健一（東京大学公共政策大学院 特任教授）
	2025 年ビジョンへの戦略と工程を共有する～私たちに何ができるか～	伊藤 雅治（元厚生労働省医政局長） 尾形 裕也（PDCA サイクルを通じた医療計画の実効性の向上のための研究会 会長） 佐々木 昌弘（厚生労働省医政局 指導課医師確保等地域医療対策室長） 吉田学（内閣官房社会保障改革担当室 内閣審議官）
	H-PAC4 期において注力すべき領域とは～2025 ビジョンを踏まえ～	江副 聡（厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課 がん対策推進官） 前村 聡（日本経済新聞社大阪本社 編集局社会部 デスク）



勉強会風景



グループ研究風景

## 〈4〉公開シンポジウム

10月12日、13日「いま、生まれ変わる医療計画～地域医療の最適化へ、実効性を得るために～」  
(於:東京大学 武田ホール、伊藤謝恩ホール)

2011年、2012年、2013年に続き、医療計画を取り上げました。2日間の開催で、のべ280人が参加しました。2013年8月の社会保障制度改革国民会議報告書を受けて、病床機能報告制度、地域医療構想、地域医療介護総合確保基金などの諸制度が動きはじめました。超高齢化社会の本格到来に向けて医療提供体制を大幅に転換する必要がある日本において、医療計画が有効な政策手段となることが期待されています。それが現実のものになるためには何が必要か、考察するという企画です。

まず、「いま、なぜ医療計画なのか」として、制度改革に取り組む行政官とそれをウォッチするジャーナリストから全体像を鳥瞰する講演がありました。その後、計画の策定プロセス、医療提供体制の機能分化と連携、PDCAサイクル管理などの総論や、5疾病・5事業・在宅医療の11種類の個別計画の各論など16のテーマについて、あるべき姿とその達成方法に関する発表と議論を行いました。最後に、立場が異なる7人によるパネルディスカッション「2018年までのロードマップ～いま私たちに何ができるか～」により、来場者と共にこれから必要な行動について考えました。半年間、医療計画の策定方法について考察してきた勉強会「地域医療計画実践コミュニティー(RH-PAC)」との協働のかたちで開催しました。

※詳細はウェブサイト <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU> をご覧ください。

## 〈5〉成果発表会

H-PACのグループ研究活動は、社会の現実的な受け手に提言することを目指して行われます。プログラム終了時に開催する成果発表会は、コミュニティー内での活動と相互フィードバックにより得られた成果を、社会に向けて発信する第一歩の場です。「医療を動かす」プロセスにおいて各ステークホルダーの頂点に立たれ、意思決定を行われている方々に向け、訴求力のあるプレゼンテーションに磨き上げることが求められます。

2015年3月14日に行った第4期成果発表会では、各グループからのプレゼンテーションに対し、3人のゲストコメンテーターから親身なアドバイスや、今後の活動継続・実践につながるコメントを頂戴しました。

### 第4期成果発表会 ゲストコメンテーター (五十音順、所属・肩書きは開催当時)

- |                   |
|-------------------|
| ◎坂本 すが氏 日本看護協会会長  |
| ◎二川 一男氏 厚生労働省医政局長 |
| ◎横倉 義武氏 日本医師会会長   |

## 〈6〉H-PAC第4期 成果物の公開

H-PAC同窓会が自主運営しているウェブサイト<http://h-pac.net/>に掲載される予定です。

### ■H-PAC 第4期 参加者

「患者支援者」「政策立案者」「医療提供者」「メディア」の4つの立場から募集し、経歴と小論文の内容に基づく採点委員会による審査・選考を経て、42人が参加しました。

内訳と参加者の主な属性等は次のとおりです。なお、参加者の居住地は首都圏にとどまらず、遠隔地からの参加も複数みられました。

**患者支援者** 8人(患者団体主宰者ほか)

**政策立案者** 11人(厚生労働省職員、市議会議員、自治体職員、職能団体政策担当者、経営コンサルタントほか)

**医療提供者** 16人(病院勤務医師、診療所医師、看護師、医薬品/医療機器メーカー社員、医療機関企画管理担当者ほか)

**メディア** 7人(全国紙記者、テレビ局記者、専門誌編集者、フリーランスライターほか)

## ■H-PAC 4 期生 参加者の声（敬称略）

### 〈患者支援者〉

**赤池 弘**

全国健康保険協会  
保健第一グループ リーダー

「医療政策実践コミュニティー」の最後に政策発表会（3月末）を行いました。日本医師会会長、日本看護協会会長、厚生労働省医政局長等にグループのテーマを提言。仕事も忙しく、通えない時期もありましたが、休日を「なにくそ！」という意識で頑張った。専門性がある多くの人たちと交わり、自分の能力の無さを痛感。



**久田 邦博**

がん患者当事者にしか分らない視点を大切に研究に関わり、他のステークホルダーと議論を重ねる中で患者を中心にした取り組みに変化して行くプロセスに面白みと喜びを感じた。あつという間の一年間であったが、多くの気づきと学びを得て、そして、同志との強い絆が生まれた密度の濃い時を過ごすことができた。



**渡辺 康一**

ビッグロブ株式会社

視野と人脈が広がるとても貴重な1年でした。医療政策を学びながら4つのステークホルダーが目指す社会やその実現を議論することはとても新鮮で、ものの見方や考え方の幅が広がりました。グループ研究も終盤の頃には頻繁な呑みで気心が知れいろいろな意見も交わせ有意義でした。今後この出会いを大切にします。



**清田 政孝**

NPO 法人 京都がん医療を考える会  
理事長

私は定年退職して17年になりますが昨年ほど充実した1年はありません。先生方によるご指導は勿論のこと、予想外の成果はグループ討議によるものの見方、考え方による学習でした。討議により一流企業の企画室等で企業の長期計画の立案、プレゼンテーション等により所属企業の経営ノウハウを取得することが出来たのも大きな成果でした。



### 〈政策立案者〉

**野村 真美**

日本医師会総合政策研究機構 研究員  
本プログラムは、正に医療における“リカレント教育”でした。その内容は、複数のステークホルダーが一堂に会する活動を通じた実践的なもの

です。一年間の実践的な学びを通じ、自分自身の仕事をより向上させるよう見直すこともできました。今後も、医療を動かす一員として、可能な限り活動を継続していきたいと考えています。



**友松 郁子**

あおぞら診療所 研究員

どうやって実行していこうか？悩み続けるよりもメンバーに問いかける。そうすると、多方面から反応があり、新たな視点も提供され、進むべき方向に向かって扉がまた開かれる。この一年は、本当にその繰り返しでした。H-PACでは、私たちが望む医療体制、ひいては社会の仕組みは自ら作るものであると身を持って体験できます。



**薬袋 祐介**

東京都福祉保健局 医療政策部  
救急災害医療課

医療をもっと良くしたい、動かしたいと思う時、それが個人的経験や「現場感覚」を越え、政策としての普遍性と広がりを獲得するためには、他者を説得するためのロジックと実現に向けた戦略が必要。こと政策立案に直接携わる身として、毎週様々な立場の方々と議論する中でそうした能力を養うことができたのは何物にも代えがたい体験でした。貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝いたします



## 〈医療提供者〉

### 安藤 未生

独立行政法人国立病院機構本部  
職員厚生部職員課労務係

この H-PAC 第 4 期によって人生観が変わったと言っても過言ではありません。特に、普段なかなかお目にかかることがなくて志の高い方々と出会い、一緒に一つの目標に向かって協力できたこと、講義の中で「組織の長でなくてもリーダーになれる」ということを学び実際に H-PAC の研究班でリーダーを務めさせていただいたことは、大変貴重な経験となりました。



### 大西 佳恵

クリエイティブ・スーティカル  
株式会社 日本代表

H-PAC に参加して、業務や研究外でのさまざまな視点、考え、経験を持つ新たな多様な仲間と医療政策を考える機会をいただきました。これまで製薬会社やアカデミアで薬剤疫学や統計、医療政策に係わってきましたが、自分の中の考え方もより社会的な視点で医療政策および自身の研究を考えることができたことと感謝しています。



### 大友 宣

医療法人財団老蘇会 静明館診療所

横須賀で地域包括ケアシステムづくりに取り組み、「地域が動く」ことを実感してきました。今回 H-PAC で勉強し、さらに「医療を動かす」というのはどういうことか言語化して理解することができました。何より 1 年間楽しく勉強できたこと、仲間ができたことが財産になりました。



### 中川 裕章

Nakagawa group co ltd

“医療を動かす”ための手段に政策提言書の作成、NPO 法人の設立による住民の声を反映させる仕組み、HSP、H-PAC 諸先輩の功績や実践事例を学ぶ機会は、「このユニット」しかないと思います。「リーダーシップを磨く場」としても魅力的な環境だと思います。



## 〈メディア〉

### 加藤良平

株式会社ケアレビュー代表取締役

多様な人々が集まるユニークな「場」で、多くのことを学びました。あえて課題を挙げると、理念や講義内容の素晴らしさに比べて、医療を動かす現実的な方法論「場」のファシリテーションにはやや古さを感じます。ICT の活用、地方人材へのリーチ拡充、イノベーションを促す仕組みの創出など、より一層の進化を期待します。



### 本間 俊典

経済ジャーナリスト

私は長年、ジャーナリスト兼難病患者団体支援者として活動してきましたが、数ある医療政策のテーマの中から選んで掘り下げ、研究したのは初めてでした。ステークホルダーの多い、奥の深い世界だという印象を改めて持ちましたが、同時に、人命に関わる分野のある種の窮屈さも感じました。より良い医療とは何か、ここで知り合った仲間とともに、今後も探究を続けたいと思います。感謝。



### 小川 浩子

リクルートキャリア  
コーポレート戦略統括室

いったん会社の仕事を離れ、医療者でもない自分が医療にどんな貢献ができるかを自問し、実践の糸口を紡ぐ場となりました。素晴らしい師の方々や得難い仲間との出会いを通じ、確実に自分が“良”くなったと思います。理想ではなく実際の変化を起こす戦略を練る中で、自分の未熟さにも持ち味にも気づきました。感謝 100%です。



**【問い合わせ先】**

**東京大学 公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット(HPU)**

**医療政策実践コミュニティー(H-PAC)事務局**

**〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1**

**電話:03-5841-7879**

**E-mail [h.pac.jp.info@gmail.com](mailto:h.pac.jp.info@gmail.com)**

**URL <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/> (「東大 HPU」で検索)**

**\*\*\*原則として電話によるお問い合わせはご遠慮ください\*\*\***